

科目名	臨床薬学1			ナンバリング	CLI171	授業形態	講義
対象学年	4	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	吉川真一	担当教員	吉川真一〇、佐藤 陽〇、飯塚康人				

授業の概要	薬剤師としての心構えと薬剤師の基本業務である調剤に必要な基本的知識を習得することを目的とする。 病院や保険薬局における薬剤師としての必要な倫理、法律や調剤の基礎を講義する。						
到達目標	・社会における薬剤師の使命や倫理について説明することができる。 ・調剤の概念と処方せんによる調剤について説明することができる。 ・医薬品の用法・用量、医薬品の管理について説明できる。 ・服薬指導・記録方法について説明できる。 ・注射剤調剤について説明できる。 ・薬局製剤、病院製剤について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	講義を受ける前にシラバスを参考に予習をしてくる。 講義内に出てくる定義など講義中に覚えられるものは覚える。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
		2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
	○	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・社会における薬剤師の使命や倫理について説明できる。 ・調剤の概念と処方せんによる調剤について説明できる。 ・医薬品の用法・用量、医薬品の管理について説明できる。 ・服薬指導・記録方法について説明できる。 ・注射剤調剤について説明できる。 ・薬局製剤、病院製剤について説明できる。	・社会における薬剤師の使命や倫理について何故必要か理解し、他の人へ説明できる。 ・調剤の概念について変遷を通して説明できる。 ・薬剤師業務についての法律的な裏付けを理解して説明できる。 ・調剤業務の基礎について理解し説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート	○						本試験60点以上に最大10%加点する。
授業態度・授業への参加			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	小テスト・授業内レポートは授業中またはmanabaを用い解説する。 期末試験の解答用紙は、学生から要請があればいつでも開示する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	医療の担い手としての心構え (吉川真一担当)	薬剤師の業務が法律に基づいてことと薬剤師倫理や薬剤師綱領を通し、医療人としての薬剤師を説明する。	SBO:A-(1)-①-4 A-(2)-②-1,2 A-(2)-③-2～4 B-(2)-①-1～8
	第2回	調剤の概念と処方せんの基本的事項 (吉川真一担当)	調剤の概念の変遷と調剤の基本となる処方せんについて説明する。	SBO:F-(2)-①-1,2
	第3回	疑義照会① (吉川真一担当)	疑義照会の必要性和処方せんへの記載事項について説明する。	SBO:F-(2)-②-3,4,5
	第4回	疑義照会② (吉川真一担当)	相互作用や重複投与など疑義照会の具体例について説明する。	SBO:F-(2)-②-6,7 F-(2)-③-5
	第5回	血液製剤・消毒薬 (吉川真一担当)	血液製剤の取り扱い、消毒薬の選択について説明する。	SBO:B-(2)-②-9 F-(2)-⑤-13 F-(2)-⑥-4,6
	第6回	医薬品の添付文書とインタビューフォーム (吉川真一、外部講師担当)	医薬品の情報について添付文書、インタビューフォームなど情報の違いについて説明する。	SBO:E3-(1)-②-3～6
	第7回	医薬品の用法・用量 (佐藤陽担当)	医薬品の用法・用量について説明する。患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明する。	SBO:F-(2)-④-2,13
	第8回	処方せんと調剤(薬袋・薬札作成と調剤) (佐藤陽担当)	薬袋、薬札の記載事項内容およびその作成方法を説明する。処方せんによる医薬品の調剤について説明する。	SBO:F-(2)-③-8,19
	第9回	処方せんと調剤(医薬品鑑査) (佐藤陽担当)	医薬品(調剤薬)の鑑査の必要性和その監査方法を説明する。	SBO:F-(2)-③-8,19
	第10回	処方せんと調剤(麻薬、毒薬、劇薬、向精神薬など) (佐藤陽担当)	麻薬、毒薬、劇薬、向精神薬、覚せい剤原料などの取り扱い方法を説明する。	SBO:F-(2)-③-18、F-(2)-⑤-3,12
	第11回	服薬指導・記録方法 (佐藤陽担当)	服薬指導・記録の必要性を示し、その方法を説明する。	SBO:F-(2)-④-3,10,11,12,13,15、F-(3)-④-3,12
	第12回	注射剤、輸液製剤 (飯塚康人担当)	注射薬調剤の概念と代表的な注射薬の配合変化の分類、その原因と回避方法を説明する。	SBO:F-(2)-③-5
	第13回	薬局製剤と病院製剤 (飯塚康人担当)	薬局製剤、病院製剤の意義(必要性)、調剤上の手続き、品質管理などについて説明する。	SBO:F-(2)-⑤-6,7 F-(5)-③-3
	第14回	医薬品の管理 (飯塚康人担当)	医薬品の取り扱い上の規制、流通機構と購入管理、品質管理、経済管理の概念および医薬品管理の具体例を説明する。	SBO:F-(2)-⑤-1,2,3,5,10,11
	第15回			
	試験	第1回から第14回までの内容を筆記試験により確認する。(期末試験)		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。小テストを実施する(結果を評価に含む場合は、事前に知らせる)。		
授業外学習の指示		配布資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する教科書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。関連する国家試験の過去問を解いてみることも勧める。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	調剤指針 第十三改訂、日本薬剤師会編 ISBN978-4-8408-1193-4 プリント資料を配布
参考書	薬剤師業務の基本(羊土社)
参考URLなど	なし
その他	